

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年6月28日

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ロンドン大学東洋アフリカ学院は、ロンドン大学連合に所属している大学の一つで、その名の通り、アジア・アフリカ研究を主に行なっています。開発学で著名な学校ですが、美術史や文学、経済学、政治学など、ほぼ全ての文系分野を網羅した多彩なプログラムを提供しています。留学生が他の学校よりも多く、国際性に溢れたキャンパスです。

留学した動機

高校生の夏休みに英語圏に一ヶ月ほど短期留学した経験があり、自分の母国語ではない言葉をベースにして生活することが私にとって刺激的で、「大学生になったら留学したい」という思いが漠然とありました。その意志が確固たるものになったのは、3年生の時に今の専攻(美学芸術学)に進学した時です。きっかけは3つあります。1つ目は、美学という学問が完全に西洋由来であることから、英語やフランス語の文献を読むことが多く、自分の専攻に関する英語の論文を読む持久力を身に付けたいと思ったこと。2つ目は、私は美術館の役割について研究しているのですが、東京よりも美術館のカルチャーが豊かなロンドンに留学したいと思ったこと。3つ目は、キュレーティングを学びたいと思ったこと。東大にはキュレーションの授業はありませんので、留学して学ぶ必要がありました。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	9月~	2018年	6月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2020年	修士2	年生の	3月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			58	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			8	単位
	留学後の取得(予定)単位			66	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

大学3年生の3月まで演劇活動に専念したかったため、4年生で留学することになりました。はじめから大学院進学を考えていたため、就職活動の時期に重なっても問題はありませんでした。また、3年生で留学すると、あまり専門科目に関して知識がない状況で行くことになるので、4年生のSセメスターまではしっかり専攻に関する勉強をしてペースを作っておきたいという思いがありました。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

あちらから来るメールに従って手続きすれば何も問題はありませんでした。しかし、あちらも人手が足りておらず、返信が遅いことが多かったので、質問したいときは余裕を持って早めに連絡することをおすすめします。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

Tier4ビザという種類でした。新橋にあるUKビザセンターに申請しました。追加料金を払って、エクスプレス便を使ったので1週間で取得できました。ビザセンターに提出した書類は、パスポート(今までのもの全て)とそのコピー

- ・CAS(受け入れ大学から発行される入学受け入れの書類)
- ・ビザセンターの予約確認表(Appointment Confirmation)
- ・ビザオンライン申請フォームのプリントアウト
- ・自分名義の通帳(資金証明として)とそのコピー
- ・通帳の英訳書類
- ・東大の成績1-4年分全て(英訳)
- ・offer of accommodation(メールで送られてきた寮受け入れ許可証)のプリントアウト

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

皮膚が弱いので、軟膏は常備薬として持参し、また、化粧品は日本製のものだけを持っていきました。アドバイスとして、部屋にダニがいることが多く、かゆみに悩まされたので、ダニを駆除するスプレーや、虫刺されの薬を持って行ったほうが良いです。また、新たな食物アレルギーが留学中発覚して、苦しかったので、アレルギー体質の人は事前に何のアレルギーを持っているかを確認したほうが良いと思います。イギリスは乾燥していたので、マスクは必須です。風邪もよく引いたので、風邪薬は多めに持って行ったほうが良いです。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大が指定する、「付帯海学保険」に加入していました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

卒論を帰国したらすぐに取り掛からなければならなかったのですが、担当教授との話し合いの機会をいただき、構想をある程度練ってから渡英しました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出発前の語学レベルはIELTS7.0でした。スピーキングが不安だったので、英会話の塾に通っていました。あとはBBCのラジオを聞いてブリティッシュアクセントに慣れるよう努力したり、映画は全て英語字幕で見るようにしていました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

先述のダニ駆除スプレー、虫刺され薬、風邪薬、マスク。海外の包丁は切りにくいので日本製のを持って行ったほうが良いです。私は4年生で留学し、年金や、クレジットカードの学生の身分が自動的に失効してしまう時期(3月)にイギリスにいたため、手続きがかなり面倒でした。渡航前に年金事務所やクレジットカード会社に連絡しておくことをおすすめします。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
 ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Southeast Asia in the Modern Imagination: Art, Theory in Art History and Archaeology	0.5	●	Critical Readings in Arts and Cultures	0.5	●
Gender, Art and Visual Culture: Explorations in the Representation of Themes in the Art and Archaeology of East Asia	0.5	●	Basic Korean I	1	●
Curating Global Arts	0.5	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

Termが3つあり、Term1, 2は授業、Term3はテストとリビジョンです。毎週授業前に10本以上の英語論文を読む必要がありました。授業では発言が求められます。論文を読んでないと発言できないので、予習は必須です。Curating Global Artsは、紙面上で展覧会をオーガナイズするというもので、今までにない授業の内容だったので興味深かったです。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期あたり4つ授業を取る必要がありました。1つの授業にLectureとTutorialがあることが多かったので、週4コマしか授業がないわけではなく、1つの授業あたり3時間(Lecture2時間+Tutorial1時間)、計12時間の授業でした。一つの授業あたり0.5unit(半期の授業)、1unit(通年)で、年に4unitの授業を選べます。予習には大体3-5時間費やし、学期末レポートが多かったので、レポート提出前1週間はレポートに専念していました。

④学習・研究面でのアドバイス

3学期にリビジョンとテストがまとめてあったのですが、その時にノートと論文を見返して復習をするので、ノートは見やすく書くように心がけたほうがいいです。予習しておくのとあとあと楽なので、とりあえず読まなければならない論文は予習の段階で理解しておきましょう。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

十分なボキャブラリーがなく、ディスカッションの時は大変でした。とにかくスピーキングが不安だったのでネイティブの友達やフラットメイトとなるべく多く話して英語を喋ることを心がけました。ノートは英語で全てとったほうが英語で理解するので、ディスカッションの時に楽です。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

SOAS生専用の寮のDinwiddy Houseに宿泊していました。月約9万円ほどでした。Kings Cross St Pancrasというロンドンで一番大きな駅の近くにあったので、便利ではありましたが、大学までは徒歩20分でした。宿舎は1人につき1つのバスルームと部屋を与えられ、6人でキッチンを共有するというスタイルでした。大学側が提示してくれた寮のリストから見つけました。SOAS生の大半はそこに住むと思いますが、水回りで苦労したので、他の寮も検討することをおすすめします。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

常に肌寒いです。乾燥していて風邪を引きやすかったです。半袖は5月6月以外ほぼ着なかったです。ロンドンは交通費が高いので、なるべく歩くようにしていました(歩ける距離に色々あります)。食事は常に自炊をしていました。スーパーは日本のと価格帯はあまり変わりません。大学の周りはブルームズベリーと呼ばれる地区で、大英博物館のほぼ隣に大学は位置していました(大英博物館で授業がよく行われました)。支払いは大体クレジットカードで行い、日本からある程度現金(日本円とポンド)を持って行きました。キャッシュパスポートという海外のATMで引き出せるデビットカードを持参し、現金が必要な時は親にそのカードに振り込んでもらっていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安の面で不安に思うことはほぼありませんでしたが、友達が携帯や財布を盗まれているのを見て、人混みでのスリには気をつけていました。イギリスの冬は、寒く、陰鬱です。レポートの時期と重なると精神を病むので、積極的に友達と話したりネットで映画を見たりして気分転換していました。イギリスのビザ申請の際に保険に加入することが必須なのですが、そのおかげでGPというかかりつけ医に診療をしてもらうのは無料です。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

約13万円 家賃9万円 食費2万円 交通費5000円 通信費3000円 娯楽代1万円

・留学に要した費用総額とその内訳

約30万円 航空賃16万円、ビザ申請(ビザ+健康保険)7万円、日本の留学保険7万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO 月10万円 東大の国際交流課を通して見つけました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

イギリスは演劇が盛んなのでよく見にいきました。シェイクスピアグローブでは立ち見が5ポンド(750円)ですし、大体日本よりも安いです。また、芸術を専攻していたのでほぼ毎日美術館に通っていました。イギリスでは大体の美術館が無料で入れます。長期休暇はよく旅行をしました。イギリス国内だけでなく、フランスやイタリアにも行きました。LCCが発達していた5000円ほどで航空券が取れるのは有難かったです。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

Insessionalという学期中の語学の授業がありました。Essayの書き方を教えてください。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館の所蔵している本の数は素晴らしかったです。日本研究も盛んなので、英語はもちろん、日本語の本もたくさんありました。小説もおいてあったので、よく休憩時間に日本語の小説を読んでリフレッシュしていました。WiFiには大学内のどこでもアクセスできました。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

就職活動はまだまだ先なので実感は湧きませんが、一つだけ言えるのは、日本に固執せずに海外で働くことも視野に入れてみようと思えるようになったということです。留学を通して英語にもある程度自信が付き、英語を常に使える環境にいたいという気持ちも大きくなりました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学を通じて一番に思ったことは、「不完全な英語でも問題はない」ということです。「英語力が向上した」という、先ほど言っていたことと矛盾するのではないかとと思われるかもしれませんが、通じれば問題ないと開き直れたのも事実です。また、家族や友達の有難さを実感しました。初めての一人暮らし、初めての海外生活で不安に思わないはずはないですが、そこで人に頼る勇気を出せたこと、そして頼れる人がいたことは、私にとって、とても意味を持つことでした。勉強面では、忍耐強さを獲得できたと思います。なかなか進まない英語論文のリーディング、なかなか終わらないエッセイなど、日本での勉強の何倍も大変でしたが、我慢強く努力することを学ぶことができたように思います。

②留学後の予定

卒論を仕上げ、東大の大学院と海外の大学院にアプライすることを検討しています。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学という大きな理想を掲げて挑戦するもの、というイメージがありますが、その必要はなく、とにかく日本とは別の環境に身を置いて生活し、勉強すること、それだけで留学の意義は果たせると思います。留学を終えた今、留学で得た様々な知見、そして友人は今後の人生において重要な役割を果たすことになるだろうと確信しています。是非留学を検討してみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にありませんが、留学した先輩に個人的に連絡をとって情報をいただいていた。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年6月27日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ロンドン大学東洋アフリカ学院
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 民間企業(業界: サービス)	<input checked="" type="checkbox"/>	6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

ロンドン大学のカレッジの一つであり、東洋やアフリカなどの「第三世界」と呼ばれる地域の研究を中心に、人文系の学問の研究ができる。キャンパスはロンドンの中心地に位置しており、アクセスが非常によい。学生数は少なく、かつそのうちの多くが留学生であるという、非常にグローバルでアットホームな大学である。リベラルな思考を持った教員と学生が多く集まる。

留学した動機

日本の大学では勉強できない学問(主にジェンダー学)を集中的に学びたかった。また、以前幼い頃に住んでいたイギリスをもっと深く知るために、住み直したいと考えた。

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	9月~	2018年	6月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2019年	学部5	年生の	4月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			40	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			未定	単位
	留学後の取得(予定)単位			未定	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015年	4月入学	2020年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年			ヶ月間	

⑨留学時期を決めた理由:

二年生の際は、まだ東京大学での専攻が決まっておらず不安定だった。四年生だと、就活が難しくなると考えた。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

留学先から受け入れ確定の連絡が来るのが、予想以上に遅く、焦った。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

留学先でインフルエンザにかかってしまった時は途方に暮れた。日頃から、現地にある日本の病院を把握しておくべき。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

留学して初めのころは、聞きなれない外国語に戸惑うことが多いので、出発前にはリスニングを練習しておいたほうが良いと感じた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
The Anthropology of Gender			Religion and World Policits		
Gender and Music			Gender, Art and Visual Culture: Exploration in the Representation in Southeast Asia		
Queer Cinema					
Issues in Gender and Development					
Issues in Post-War Japan					

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)
授業は週四コマ(一授業につき、二時間)。その他の時間は個人で予習や復習。授業の内、一時間はレクチャー、もう一時間はディスカッション、という授業構成が多かった。毎週映画を見る授業もあった。
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など
一学期あたり、4コマ(8時間)の授業数。一週間あたり、35時間ほど自習。
④学習・研究面でのアドバイス
⑤語学面での苦労・アドバイス等
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
SOAS生用の学生寮。六人フラットでキッチンシェア。部屋にトイレとシャワーがあったのが大変助かった。また、一人部屋なのも非常によかった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
ロンドンにはバスが非常に便利だった。初期の頃、慣れずにメロを使っていたのがもったいなかった。また、ロンドンには公園が沢山あるので、楽しい。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安には十分気を付ける必要あり。友人が先日、キングスクロスの駅前で、小銭を求めてきた人を断ったところスマホを盗まれ逃亡されてしまった。またアジア人差別も未だ残る部分はある。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
寮費、学費以外で、月500£程度。
・留学に要した費用総額とその内訳

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOの奨学金で、月10万円。寮費にあてていた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

Dance Society に入った。だが、イギリスの大学のsocietyは日本のサークルほど活動が定まっておらず、ワークショップに参加する、といったかたちだった。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

どのような業界、職種に就職するかといったことだけではなく、どのように就職するか、そもそも今就職するのか、といったことまで、選択肢が増えた。多くの新しい価値観や考え方に出会い、柔軟な見方ができるようになった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

① 留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学をしなければ出会えなかった人、もの、考え方、知識に出会うことができ良かった。これからも変化を恐れずに、その時その時の自分と向き合いながら、生きていきたい。

② 留学後の予定

秋学期から復学。卒業後は就職。

③ 今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年6月28日

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:)	✓	6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

ロンドン大学東洋アフリカ学院は、ロンドン大学連合に所属している大学の一つで、アジア・アフリカ研究を主に行なう世界でも珍しい大学です。国際開発や美術史が著名であるだけでなく、文学、経済学、政治学などを網羅した多彩なプログラムを提供しています。国籍や民族など多様なバックグラウンドの学生が多いのも特徴です。

留学した動機

東京大学のGefILプログラムでケンブリッジ大学に短期留学するのがきっかけです。高校生までの間の多くを海外で過ごしたため、自分には今以上の海外経験は必要とないと思っていましたが、この留学をきっかけに英語で生活することと英語をツールとして利用しながら多様な環境で研究することは全く違い、後者の重要性を認識したからです。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	9月~	2017年	12月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2018年	学部5	年生の	3月頃に	行った
⑥本学での単位数:	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0	単位
	留学後の取得(予定)単位			70	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

大学三年時の短期留学で今回の留学を強く意識したので、三年生での交換留学の出願に間に合わなかった。また就職と大学院進学を迷っていたため、日本の就職活動時期に帰国できるように調整しました。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

あちらから来るメールに従って手続きすれば何も問題はありませんでした。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

3ヶ月以内だったため特別なビザ申請は必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

イギリスは基本的な医薬品は揃いますが、常備薬は持参したほうが良いと思います。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大が紹介して下さった「付帯海学保険」に加入していました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

単位は問題なく取得できていたのでそれほど問題はありませんでした。卒業論文のテーマについて視野を広げよう、という意識をもって留学していました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

特にありません。強いて言えばブリティッシュアクセントになれる練習をしました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

寮には備え付けのベッドと机以外何もなかったのですが、布団にもなる寝袋を日本から持って行っていたので到着初日にも困ることなく役立ちました。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Southeast Asia in the Modern Imagination: Art, Visuality, Exchange	0.5		Critical Readings in Arts and Cultures	0.5	
Theory in Art History and Archaeology	0.5		Basic Korean I	1	
Gender, Art and Visual Culture: Explorations in the Representation of Southeast Asia	0.5				
Themes in the Art and Archaeology of East Asia	0.5				
Curating Global Arts	0.5	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

予習が必須で読んでいかなければならない文献が膨大だったのでかなりの時間を勉強に費やしていたと思います。長文を効率よく読み込む能力が身に付きました。日本の映画を黒澤明から現代のアニメ映画まで美術史的に学ぶ授業が、普段何気なく触れている映画を構図など美学的な視点と当時の社会情勢などの社会学的視点で学ぶことができとても面白かったです。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期あたり4つ授業を取る必要があり、1つの授業にLectureとTutorialがあることが多く、一授業当たり、一週間で平均3時間程度の授業がありました。1つの授業あたり0.5unit(半期の授業)一学期の留学だった私は2unitsの取得でした。

④学習・研究面でのアドバイス
とにかくいかに効率よく文献を読み込み、授業中の理解度を高めるかが重要だと思います。キーとなる文章を文献から抜粋しておくことで授業が分かりやすかったです。またエッセイの締め切りがどの授業も似たようなタイミングだったので計画的に課題をこなすことが重要でした。
⑤語学面での苦勞・アドバイス等
日常生活での英語は問題なかったのですが、授業で使う専門用語はやはり予習しないとわからないので予習は必須です。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
SOAS生専用のDinwiddy Houseという寮に宿泊していました。Kings Cross St Pancrasという大きな駅の近くで、ロンドンの中心にある大学までも基本的には徒歩で通学できました。個室は1人につき1つのトイレとシャワーが備え付けられていて6人でキッチンを共有するというスタイルなのでプライベートは確保されます。SOASの一年生や留学生の大半はそこに住むので交友関係は広がります。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
かなり寒く、イメージ通り曇りの日が多いです。大学の周りはUCLやほかのロンドン大学の所属大学も多くあり大英博物館も近い文化的な場所です。ロンドンには意外と小さく平坦な道が多いので歩いて出かけることが多かったですが公共交通機関も充実しています。スーパーマーケットは日本と物価はさして変わらず、中華スーパーなども利用しながら自炊して日本食を作っていました。三井住友信託銀行の海外でも使えるキャッシュカードを持っていたので、現地の通貨を自分の口座からおろすことができたので便利でした。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は特段悪いわけではないでしょうが、昨今のほかのヨーロッパ諸国と同じでテロのリスクもあり、クリスマス間にテロの愉快犯の事件に居合わせたときは恐怖を感じました。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
約11.5万円 家賃9万円 食費1万円 交通費5000円 通信費3000円 娯楽代5000円
・留学に要した費用総額とその内訳
日本の留学保険7万円、航空券はマイルで賄いました。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO 月10万円 東大の国際交流課を通して見つけました。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
イギリスは美術館がほぼ無料なので毎日のように行っていました。また映画や演劇も安く助かりました。イギリス国内だけでなく、フランスやアイスランド、ドイツなどバスとLCCを活用し旅行をたくさんしていました。
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
とくにないです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)	
図書館の充実度は素晴らしいです。食堂はありませんがカフェテリアがあります。	
留学と就職活動について	
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど	
留学を決断した時から、自分の中での留学の意味や将来のビジョンなどをゆっくりと考える時間ができたのでわざわざ就職活動のための自己分析が特段必要なく論理的に説明できたことが大きなメリットだったと思います。	
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響	
ワークライフバランスや会社の社会貢献度を重視するようになりました。留学中に学問だけにどっぷりとつかることができ、その豊かさを知ることができたので仕事に追われてしまうような職業ではなく、自分の興味関心と両立させながらできる自由度の高さを重視しました。	
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)	
留学生用の海外で行われるキャリアフォーラムに行くと就活の雰囲気がつかめてよいと思います	
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください	
<input type="checkbox"/>	1. 研究職
<input type="checkbox"/>	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
<input type="checkbox"/>	3. 公的機関(機関名:)
<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体(団体名又は分野:)
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(企業名又は業界: アマゾンジャパン株式会社)
<input type="checkbox"/>	6. 起業(分野:)
<input type="checkbox"/>	7. その他()
留学を振り返って	
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感	
大学生活と日常生活が完全に溶け合い、常に研究について考えることができる贅沢な時間だったと思います。また、私の場合は同じキッチンシェアする友人はみな別の国から来た留学生でイギリス人も日本人も一人もいなかったのが様々な文化に触れることができましたし、異国で一人暮らしという心細い経験を分かち合う家族のような存在でした。様々なことを一緒に乗り越えることで本当に濃密な時間を過ごしたため一生の友達になったと思います。	
②留学後の予定	
休学してウィーンの国連機関であるCTBTOでインターンしたのち、復学して卒業論文に取り掛かります。	
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス	
私のように帰国子女として育つと自分はもう十分海外になれていると思います、留学にそれほどのモチベーションを持たない場合が多いかと思います。しかし、単に英語で過ごす日々と、多様な環境にもまれながら研究することは本当に大きな違いがあります。日本のようにサークルやアルバイトなど学業以外の刺激がある生活ではないですが、学業に集中できる時間はほかでは味わえない経験だと思うので、とても意味の大きい経験になるのではないかと思います。	
その他	
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物	
特にありません	
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。	